

< 参考資料 >

- 1 . まちづくり指標一覧（詳細）
- 2 . 市民公募委員からの意見書
 - ・ 渡邊 源喜委員「枚方市まちづくり指標検討委員協議会に参加して」
 - ・ 北原 千佐子委員「まちづくり指標市民検討委員を通じて」
- 3 . 市民意識調査結果
- 4 . 市民意識調査 質問票
- 5 . 枚方市専門委員設置規則

参考資料 1.まちづくり指標一覧(詳細)

| 基本目標 | 番号 | 指標名 | 指標のねらい | 定義 | 解説 | 市民 | 事業者 | 行政 | 方向 | 目標 | 数値 (H12年度末) | 単位 | 担当課 | | | |
|-----------------------------|-------------------------|--------------------------------|---|--|--|---|-----|------|-----------|----------------|---------------------|----------------|--------------|-------|----|----------|
| 1 人と自然が共生する環境保全のまち | 1 | 1人当たりの1日のごみの量 | 資源を循環させ、環境にやさしいまちづくりをしているかどうかを測る指標 | 市民が1日に出すごみの量 総排出量 / 人口・日 | 人と自然が共生する環境保全のまちをつくるためには、ごみの発生抑制が必要である。市民が1日に出すごみの量を意識することにより、ごみの総量を減らすことが可能となる。 | | | | ↘ | 半減 | 867 | g | 減量推進課 | | | |
| | 2 | 環境に優しい市民の割合 | | 買い物袋を持って買い物に行く人の割合 市民意識調査で「いつも買い物袋を持っていく」と回答した人の割合 | 環境保全のためには、市民一人ひとりの環境意識の醸成が必要である。市民が、少しでも環境負荷を減らす意識を測る指標である。 | | | | ↗ | 逓増 | 19 | % | 消費生活センター 企画課 | | | |
| | 3 | 環境に優しい企業の数 | | ISO14001を取得している枚方市に立地する企業(事業所)等数 JAB(財)日本適合性認定協会)登録団体数 | 人と自然が共生する環境保全を行うためには、エネルギーを有効に活用するなど環境に配慮した企業経営が求められる。本市におけるISO14001取得企業数の増が求められる。 | | | | ↗ | 逓増 | 7 | 事業所 | 生活環境課 | | | |
| | 4 | ごみの資源化率 | | 資源化できたごみの量 / ごみの処理総量 (%) | 環境保全のためには、資源を循環させごみを減らすことが必要である。本指標はごみの再資源化の割合を測る指標である。 | | | | ↗ | 数値目標 | 17.7 | % | 減量推進課 | | | |
| | 5 | 空気のきれいさ | 健康に生活できる安全な環境であるかどうかを測る指標 | 大気環境基準適合率(窒素酸化物(NOx)) | 健康に生活できる安全な環境をつくるためには、澄んだ空気を確保する必要がある。本指標は大気汚染や有害化学物質等による汚染の未然防止に寄与する指標である。 | | | | ↗ | 100% | 66.7 | % | 環境公害課 | | | |
| | | | | 大気環境基準適合率(浮遊粒子状物質(SPM)) | | | | | | | 83.3 | % | | | | |
| | 6 | 水のきれいさ | 健康に生活できる安全な環境であるかどうかを測る指標 | 水質環境基準適合率(BOD) | 健康に生活できる安全な環境をつくるためには、清らかな水を確保することも必要である。本指標は河川等の水質を改善するために用いる指標である。 | | | | ↗ | 100% | 13.9 | % | 環境公害課 | | | |
| | | | | 水質環境基準適合率(有害物質(環境基準健康項目)) | | | | | | | 100 | % | | | | |
| | 7 | 静けさ | 健康に生活できる安全な環境であるかどうかを測る指標 | 騒音環境基準適合率(道路に面しない地域) | 健康に生活できる安全な環境をつくるためには、静けさを確保することも大切である。本指標は騒音や振動を防止するために用いる指標である。 | | | | ↗ | 100% | 87.5 | % | 環境公害課 | | | |
| | | | | 騒音環境基準適合率(道路に面する地域) | | | | | | | 59.1 | % | | | | |
| 8 | 自然に親しめる環境づくりを行っている学校の割合 | 自然とふれあえるまちであるかどうかを測る指標 | 市内の小中学校においてピオトープ(動物や植物が生活できるように造成された小規模な空間)等を整備している学校の割合 | 人と自然が共生し、自然と仲良く暮らすまちをつくるためには、身近な自然をつくるのが大切である。学校におけるピオトープの取り組みを通じて、自然と仲良く暮らすことができるまちの度合いを測る。 | | | | ↗ | 逓増 | 5.9 | % | 指導課 | | | | |
| 9 | みどりの割合 | | 緑被率など(市域面積に対する緑の現況量の割合)「緑」(樹木や草等の植物で覆われている土地(農地を含む)の他、自然的環境の状態にあるもの(水辺地、水面など)を含めたもの)。 | 人と自然が共生し、自然と仲良く暮らすまちをつくるためには、自然を保全することが大切である。本指標は本市の緑被率や市内の農地の面積などにより、みどりの割合を測るものである。 | | | | → | 低下率を押し下げる | 34.1 | % (H9) | 公園課 | | | | |
| | | | 市街化調整区域内農地、生産緑地 | | | | | | | → | 低下率を押し下げる | 670 | ha | 農政課 | | |
| 10 | 1人当たりの公園面積 | 公園面積 / 人口(市民1人当たりの面積) | 人と自然が共生し、自然と仲良く暮らすまちをつくるためには、公園など身近な自然をつくるのが大切である。本指標は市民1人当たりの公園面積を測るものである。 | | | | ↗ | 数値目標 | 4.11 | m ² | 公園課 | | | | | |
| 2 やすらぎのなか、世代をつないで住み続けるまち | 11 | 水洗トイレの普及割合 | まちの快適さを測る指標 | 全人口に対する「公下水道処理人口」及び「合併処理浄化槽処理人口」の合計の割合 | 水洗式トイレの普及割合を見ることによって、快適な居住環境をつくり、やすらぎのあるまちづくりに寄与できているかを測るもの。また、同時に、水質汚染を防ぐ取り組みを見ることが出来る。 | | | | ↗ | 数値目標 | 80.4 | % (H11/10) | 環境公害課・下水道計画課 | | | |
| | 12 | 「街の美観」に対する市民満足度 | | 「3街の美観に満足している人の割合」の補助指標 建築協定数 | 良好な街並みを保全 形成し美しい街並みをつくるための指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 5(美観) 5(清潔さ) | % | 企画課 | | | |
| | | | | 「3街の美観に満足している人の割合」の補助指標 地区計画等数 | | | | | | | 地区計画等数(再開発地区計画数を含む) | → | 逓増 | 20 | 地区 | まちづくり推進課 |
| | | | | → | | | | | | | 逓増 | 5 | 地区 | 都市計画課 | | |
| | 13 | まちの安全度(犯罪) | | まちの安全性を測る指標 | 1日当たりの犯罪発生件数 刑法犯罪発生件数 / 日 | 快適でやすらぎのあるまちをつくるためには、犯罪を防止し、まちの安全を確保する必要がある。1日の犯罪発生件数を測ることによりまちの安全度を測る。 | | | | ↘ | 逓減 | 22.2 | 件 / 日 | 安全防災課 | | |
| | 14 | まちの安全度(交通事故) | | 1日当たりの人身事故発生件数 交通事故(人身)発生件数 / 日 | 交通事故を減らし、人にやさしく安全な交通体系をつくるために活用する指標。 | | | | ↘ | 逓減 | 8.9 | 件 / 日 | 交通政策課 | | | |
| | 15 | まちのバリアフリー度 | | 人にやさしく安全な交通体系かどうかを測る指標 | 駅及び駅周辺のエレベーター、身体障害者用トイレ等の設置・整備度 | すべての人に安全で快適な歩行空間を確保し、人にやさしく安全な交通体系をつくるために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 60.9 | % | 交通政策課 | | |
| 16 | 「農」の活用度 | 「農」を守り、活かすまちづくりができているかどうかを測る指標 | 学校給食に使われる地元米(れんげ栽培米を含む)の割合 | 地元の米で子どもを育てるとともに、子どもの頃から「農」に対する関心を持たせることにより、農を生かして農家(緑)と市民との交流活性化を図るもの。 | | | | ↗ | 逓増 | 33.1 | % | 学校給食課 | | | | |
| 17 | 市民と「農」のふれあい度 | | 市民農園登録数 | 市民と「農」のふれあいを促進することにより、「農」を守り、活かすまちとするため、本指標を活用する。 | | | | ↗ | 逓増 | 818 | 区画 | 農政課 | | | | |
| 18 | 「枚方の交通」に対する市民満足度 | | 交通利便性を測る指標 | 市民意識調査の枚方の満足度調査で「鉄道利便性」と「自動車利便性」に「満足」と回答した人の割合 | 交通の流れを円滑にし、人にやさしく安全な交通体系をつくるために活用する指標。市内だけでなく、周辺地域とのアクセスについても満足度を見るもの。 | | | | ↗ | 逓増 | 23(鉄道) 11(自動車) | % | 交通政策課 | | | |
| 3 魅力にあふれ、生き生きとしたまち | 19 | 「枚方の魅力」に対する市民満足度 | 市民や市外の人から見て、魅力的な街であるかどうかを測る指標 | 市民意識調査の枚方の満足度調査で「活動の場」と「つろぐ場」に「満足」と回答した人の割合 | 若者の活力も生かし、人が集い、魅力と活気にあふれるまちをつくるために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 4(活動の場) 4(つろぐ場) | % | 企画課 | | | |
| | 20 | 夜間人口に対する昼間人口の比率 | | 昼間人口 / 夜間人口(従業地通学地による人口 / 常住地による人口) 昼間人口比率 | 時代の変化に対応した産業を興し、魅力にあふれ、いきいきとしたまちとするために活用する指標 | | | | ↗ | 逓増 | 80.3 | % (H7 国勢調査) | 情報管理課 | | | |
| | 21 | 市内商業の活力 | | 商業従事者数(市内事業所) | 地域に根ざした商業集積・商業活動を育み、時代の変化に対応した産業を興すために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 25,087 | 人 (H11/7) | 商工観光課 | | | |
| | 22 | 観光の活発さ | | 観光地等における観光客の定点観測値 | 集客交流が広がるまちをつくり、魅力にあふれ、生き生きとしたまちをつくるために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 1,319 | 千人 | 商工観光課 | | | |
| | 23 | 日常的な買い物を市内でする人の割合 | | 市民意識調査で「日常的な買物を市内でする」と回答した人の割合 | 地域に根ざした、商業集積・商業活動を育成し、魅力にあふれ、生き生きとしたまちをつくるために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 88 | % | 企画課 | | | |
| | 24 | 地元産業の活力 | | 事業所の開業数 | ベンチャーの企業を促進したり、コミュニティビジネスなど、時代の変化に対応した産業を興し、魅力にあふれ、生き生きとしたまちをつくるために活用する指標。 | | | | ↗ | 逓増 | 1,545 | 件 (H11/7) | 商工観光課 | | | |

【参考資料 1.まちづくり指標一覧(詳細)】

| 基本目標 | 番号 | 指標名 | 指標のねらい | 定義 | 解説 | 市民 | 事業者 | 行政 | 方向 | 目標 | 数値 (H12年度末) | 単位 | 担当課 |
|------------------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------------------|--|--|----|-----|----|------|-------|--------------------|---------------|--------------------|
| 4 健康で心豊かな自立と共生のまち | 25 | 人権などに関する相談件数 | 人権を尊重し、心豊かに暮らせる街であるかどうかを測る指標 | 人権関係相談件数 | 差別や暴力をなくし、人権を尊重する、人が心豊かに共にいけるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 過増 | 11 | 件 | 人権政策室 |
| | | | | DV相談件数 DV：ドメスティック・バイオレンスの略で、女性が身近な男性から受ける様々な暴力行為のこと | | | | | | | 113 | | 企画課 |
| | | | | 家庭児童相談受付数 | | | | | | | 3,286 | | 子ども課 |
| | 26 | 日常的にボランティアや地域活動を行う人の割合 | 市民意識調査で「月に数回以上活動する」と回答した人の割合 | 人と人との支え合いを上げ、人が心豊かに共に生きるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 過増 | 10 | % | 市民活動課 | |
| | 27 | 企業における障害者の雇用率 | 公共職業安定所の定義。公共職業安定所単位。管轄は枚方市、寝屋川市、交野市。 | 障害のある人の自立を支援し、人が健やかに自立して暮らせるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 数値目標 | 1.79 | % H12/6 | 障害福祉課 | |
| | 28 | 障害者グループホーム利用者数 | 障害者グループホーム利用者数 | 障害のある人の自立を支援し、人が健やかに自立して暮らせるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 272人 | 47 | 人 | 障害福祉課 | |
| | 29 | 介護保険ホームヘルプサービスに対する利用者満足度 | 市民の健康を支え、自立して暮らせる街であるかどうかを測る指標 | 介護保険利用者アンケートによる調査値(満足、やや満足) | 高齢になっても健康で心豊かに住み慣れた地域の人と共に自立して生活できるよう施策の整備が必要であるが、各種サービスの量だけでなく、その質についても検証する必要がある。 | | | | → | 過増 | 89.3 | % | 高齢社会室 |
| 30 | 救急車を呼んでから現場に到着するまでの所要時間 | | 救急車を呼んでから現場に到着するまでの所要時間 | 健康で心豊かに自立して生活するためには、万一の時にも安心できる体制が必要。万一の場合にも速やかに対応してもらえるという安心感を測る指標でもある。 | | | | ↘ | 5分 | 6分07秒 | 時間 | 安全防災課 | |
| 5 ふれあい、学びあい、感動できるまち | 31 | 不慮の事故で死亡する子どもの割合 | | 年齢別10万人当たりの不慮の事故死亡率 | 子どもが健康で心豊かに育つ条件を整備するために、不慮の事故で死亡する子どもの割合を減らすことが必要。 | | | | ↘ | 半減 | 4.9 (0~4歳) | 人 | 保健センター |
| | 32 | 福祉教育、環境教育を実施している学級数 | | 小中学校における福祉教育、環境教育を実施している学級数 | 人や自然とのふれあいを通じ、互いに学ぶことをとおして、感動のある豊かな子どもを育てることをみる指標。 | | | | → | 過増 | 今後定義を確定予定 | | 指導課 |
| | 33 | 小中学生の基礎学力 | 地域での子どもの健康や、教育環境を測る指標 | 「基礎学力テスト等」による絶対評価を検討「授業を理解している子どもの割合」アンケートを検討 | 自らも、また他人をも生かす力を持つ子どもたちを育む為には、児童・生徒の学ぶ喜びを育み、基礎学力の習得を促す必要がある。 | | | | → | 過増 | 今後実施の予定 | | 指導課 |
| | 34 | 外国人留学生数 | | 市内の大学に通う留学生数 | ふれあい、学びあい、感動できるまちをつくるためには、出会いをひろげ、心動かす文化の育つまちをつくる必要がある。本指標は枚方市の国際化の度合いを示すものである。 | | | | → | 過増 | 609 | 人 | 政策推進課 |
| | 35 | 地域での児童育成活動の活発さ | | 地域で児童育成活動を行う団体数 / 小学校数 | 子どもたちを育む地域社会をつくり、自他を生かす力を持つ子どもたちを育むために活用する指標。 | | | | → | 過増 | 43.5 | % | 青少年課 |
| | 36 | 図書館利用の活発さ | | 市立図書館利用登録者数 / 人口 | 市民の情報活用能力を高め、学び続けるよここびのあるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 過増 | 13 | % | 図書館 |
| | 37 | 生涯学習の活発さ | 市民がふれあい、学び続ける環境を測る指標 | 生涯学習講座数、参加者数(市、大学が主催) | 生涯学習を促進し、学び続けるよここびのあるまちをつくるために活用する指標。 | | | | → | 過増 | 185 91,574 | 回、人 | 文化振興課 社会教育課 |
| | 38 | 日常的にスポーツや文化・芸術活動をする人の割合 | | 市民意識調査で「月に数回以上活動する」と回答した人の割合 | ふれあい、学びあい、感動できるまちをつくるためには、出会いをひろげ、心動かす文化の育つまちをつくる必要がある。本指標は、市民が日常的にスポーツや文化・芸術活動に取り組んでいる様子を測るものである。 | | | | → | 過増 | 30(スポーツ) 18(文化) | % | 企画課 社会体育課 文化振興課 |
| 6 みんなでつくる分権市民参加のまち | 39 | 枚方市ホームページへのアクセス数 | | 年間のアクセス数 | 市民・事業者と行政の協働を推進するためには、行政情報の公開や提供を進めるとともに、その情報にアクセスする市民の意識を高める必要がある。本指標は市民の情報化に対する意識を測るものである。 | | | | → | 過増 | 104,570 | 件 | 広報課 |
| | 40 | 市長選挙・市議会議員選挙の投票率 | | 地方選挙(市長、市議)の投票率 | 市民参加の市政運営を計る基礎的な指標として本指標を設定する。 | | | | → | 過増 | 49.97 | % H11/4 | 選挙管理委員会 |
| | 41 | 審議会等における市民公募委員の数 | 市民と行政の協働を測る指標 | 市民公募を行っている審議会等の数 | 分権市民参加のまちをみんなでつくるためには、市民参加の市政運営を進める必要がある。本指標は、政策形成過程から市民が市政に参加できるかについて測る指標である。 | | | | → | 過増 | 2 | 件 | 企画課 |
| | | | | 全公募委員の数 | | | | | | | 4 | 人 | |
| | 42 | 市民活動の活発さ | | 枚方NPOセンター登録団体数、社協登録ボランティア団体数 | 分権市民参加のまちをつくるためには、市民・事業者と行政の協働を推進することが必要である。本指標は、市民・事業者と行政の協働について測る指標である。 | | | | → | 過増 | 76 | 団体 | 市民活動課 |
| | 43 | 民間活力の活用度 | | 枚方市の事務事業における民間委託等の割合 | 行政改革を推進し、健全な財政構造とすることにより、小さくても仕事のできる市役所を確立することが可能となる。本指標は小さな市役所となる度合いを測る指標である。 | | | | → | 過増 | 14年度において確定予定 | | 企画課 |
| | 44 | 財政の健全さ | 行政の充実度を測る指標 | 経常収支比率 「連結決算による収支」 | 分権時代に対応した自治体の能力向上を図るためには、健全な財政構造を確立することが必要であり、市の財政の健全さを「経常収支比率」と「連結決算による収支」によって測る。 | | | | ↘ | 過減 | 92.2 | % (経常収支比率) | 財政課 |
| | 45 | 市役所の休日窓口サービス数 | | 市役所の休日窓口サービス数 | 休日窓口サービスをカウントすることにより、地域の情報化を進める度合いを測り、みんなでつくる分権市民参加のまちをつくる。 | | | | → | 過増 | 14年度において定義を確定予定 | | 市民課 |
| | 46 | 家庭における男女の共同参画度 | 男女共同について測る指標 | 市民意識調査で家事について「男性と女性が半々」「男性中心、女性が手伝う」「女性が中心、男性が手伝う」と回答した人の割合 | 男も女も共に家事に参加する割合を測ることにより、社会制度や慣行における不適切な性差の点検・是正をすすめ、男女の共同参画を進める。 | | | | → | 過増 | 29 | % | 企画課 |
| 47 | 管理職に占める女性の割合 | | 市役所における管理職に占める女性の割合(課長補佐以上) | 市役所の管理職の女性の割合を示すことにより、行政における政策等の立案及び決定、実行への共同参画を進める。 | | | | → | 数値目標 | 6.47 | % | 人事課 | |

目標については、今後できる限り具体的な数値目標を示すようつとめる。
 数値については平成12年度末の数値。ただし、当該時点における数値のないものは、当該時点以前の直近数値とする。
 担当課については平成13年度における担当課。

2 . 市民公募委員からの意見書

枚方市まちづくり指標検討委員協議会に参加して

渡邊源喜

昨年の夏から市民公募委員の一人として本協議会に参加して、「枚方市として実現すべき目標」を検討する場に出席できたことで、改めて枚方というまちを見直すとともに、一市民としてまちづくりにどのように関わっていくかを考える機会を頂きました。

挙げられた47の指標は、今後、市全体が「よりよい枚方づくり」を進めていく中で、いわばその背骨のような役割を果たしていくことになっていくと思います。だからこそ、指標を活かすためのこれからの動きが大切だと考えます。

47指標は、協議会提言が述べるように「わかりやすい」ものだと思いますが、その市民への周知の仕方によって、市民にとって縁遠いものでありつづけてしまうかもしれませんし、市民の生活を少しずつでも変えていって結果として枚方が魅力あるまちへと変わっていくためのきっかけとなる可能性も秘めていると思います。

そこで、これから市民が指標とどのように接していくかという観点から、以下の3点について述べたいと思います。

1. 市民にとって親しみやすく、使える指標に！

上にも書いたとおり、確かに指標は47のいずれもが「わかりやすい」ものだと思いますが、今の段階では、「言葉の意味は分かる」という程度のレベルでのわかりやすさでしかなく、市民にとって真に「わかりやすい」指標へと成長していくか否かは今後の課題だと思います。

市民にとって「わかりやすい」とは、「指標をどこまで生活の中で活かしていけるか」ということを考える時に、指標の目指している方向性が具体的なイメージとしてわいてくることではないかと考えます。その意味では、そもそも「まちづくり指標」という名称にしても、個々の指標名にしても、必ずしも日常的に用いられる言葉とはいえず、むしろ硬さ（堅苦しさ）を感じさせます。

そこで、「まちづくり指標」については愛称をつけるとともに（それは、「おらがまち自慢」、「枚方をよくするイロハ」、「枚方市47の野望」でも何でもいいと思います）各指標にはサブタイトルをつけることが、わかりやすさを高める一つの方法ではないかと考えます。

この、愛称・サブタイトルをつける方法としては、市（行政）が考えるのでも、公募するのでもいいと思いますが、それによって市民が指標を共有しやすくなれば、と思います。

ただ、別の見方をすれば、愛称やサブタイトルは市民ひとりひとりが自分なりに名前をつけることがあってもいいかもしれません。行政が用いる場合の「まちづくり指標」は、その定義も方向性も明確でなければならないと思いますが、「市民が『まちづくり指標』を気かけながら日常生活を送っていく」という視点から考えた場合、むしろ相当幅広い意味（定義）で使われたほうが効果的とも思います。例えば、指標1（1人当たりの1日のごみの量）について、「私は全ての種類のごみを減らすことは難しいが、せめて紙のごみの量だけは少しずつでも減らしていこう」といったように、自分なりに指標の読み替えができた時、言い換えれば、指標が一人歩きしはじめた時こそ、市民による指標の活用が始まるのかもかもしれません。

その意味では、愛称・サブタイトルをつけるにせよ、自分なりの読み替えを勧めるにせよ、市民にとって「使える」指標とするための周知の方法が求められると思います。

2. 市民による指標の共有を契機として、新しい地域活動のあり方の模索を！

近年、地域の中で活動する主体として、いわゆる市民活動団体が急速に育ちつつあります。一方で、従来から長年にわたって地域で様々な活動をされてきた団体が数多くあります。しかし今の段階では、両者の活動は必ずしも有機的結合を見せてはおらず、せっかくの活動が効率的な成果を挙げているとはいえないように思います。

そこで、まちづくり指標の導入が、新しく成長してきた諸団体と従来から活動を展開している団体とが連携していくための契機にならないか、と考えます。

47の指標は生活に密着した内容も少なくないので、これを共通テーマとして

各団体が寄り合ってアイデアを出し合い、実践につなげることができれば、新しい地域のあり方をも生み出す第一歩とすることができるのではないかと考えます。

3．これからのまちづくりにおける市全体としての「哲学」の確立を！

指標として挙げられた47項目の目標は、それを追求することで、枚方市のまちのありかたをも変えていくようなものが多く含まれていると思います。それだけに、市民は指標に示された目標に向かって進んでいくだけではなく、その結果としてどのような枚方にしていきたいかについても常に考えていく必要があると思います。

例えば、指標28（障害者グループホーム利用者数）は、単にグループホームを利用する障害者の数が増えればいいのではなく、その目標をクリアしていくプロセスの中で、枚方におけるいわゆるノーマライゼーションの実現を促進していくことこそ、真の目的とされるべきだと考えます。

その意味で、これから指標を活用してく際には、その先にどのような「枚方の姿」を見いだすか議論すべきだと思いますし、また、市民の間で議論を活発に行い、一定のコンセンサスを形成する必要があるのかもしれない。

一方、行政に対しても、同様の作業を求めたいと強く希望します。例えば、参考資料の「まちづくり指標一覧（47指標）」で指標42（市民活動の活発さ）・43（民間活力の活用度）の解説の中に、「分権市民参加」「市民・事業者と行政との協働」「小さな市役所」という言葉が出てきますが、これらの言葉は、いずれも枚方市のあり方を決定づけるほどの大きな意味を持つ可能性を有する重要な概念であり、その方向性についての議論が今後も必要であると思います。ただ、市民として一つだけ強調したいのは、これらの概念は全て、「市民の厚生（welfare）の向上」のためのツールとして捉えられるべきであって、それ自体が目標ではないという点です。

「市民・事業者と行政との協働」を例として考えるならば、市民・事業者との協働は、それが実現した場合、それ以前に比べて市民の厚生が少しでも向上するのであれば促進されるべきですが、そうでない場合は必ずしも「協働」の必要はないともいえるのではないかと考えます。

しかし現実を振り返れば、最近急速に広まりつつあるNPOと行政の協働の模

索は、市民の厚生向上を主な目的としているのではなく、むしろ行政コストの圧縮を意図した、行政の強力な主導による「協働」の模索が少なくないように思われます。それは、NPOに対する事業のアウトソーシングを図ることによって「小さな政府」を安易に実現しようとする試みとして、市民の目には映りません。これと同じことが、「市民・事業者と行政との協働」で起きてしまうことを、危惧します。

「小さな市役所」の志向にしても同様で、確かに不健全な財政構造はまわりまわって市民の生活を圧迫しますが、それゆえに財政健全化のみを目的とした事業の民間委託を進めるのは、やや志向すべき方向がずれているように感じます。

ただ、上に述べた「市民の厚生向上」をどう捉え、どのように計測するかは非常に難しい問題だと思います。考え方によっては、「市民・事業者との協働の件数が増えること自体が、サービス提供者の多元化の実現であって市民の選択の幅が増えることもありえるのだから、結果として市民の厚生向上につながる」といった主張も成り立つと思います。

それだけに、個々の指標に関して市が何を志向するか、言い換えれば、どのような「哲学」をもって市が仕事を進めていくかを常に考えていくことを求めたいと考えます。また、この課題こそ、市民・事業者と行政とが協働して取り組むべき内容なのだと思います。

まちづくり指標市民検討委員を通じて

北原 千佐子

正直いいますと、この委員になって私自身、何をすればいいのやら最初は見当もつきませんでしたし、回を重ねた現在でもその役を果たしているのかは自信がありませんが、一市民としてまちづくりに関わる活動をしている中で感じている率直な意見を述べさせていただいたつもりであります。ここでも何を書いていいかはわかりませんが、とりあえずこれまでに協議会で発言してきたことを中心にまとめてみましたのでよろしくお願いたします。

現在、私自身、「枚方を誇りに思う人づくり」を生涯学習を通してはかっているということで、公民館やコミュニティーを中心に、地域資源を楽しみながら学ぶ講座、地域学『枚方学』講座のコーディネートに2年ほど前から取り組んでいます。しかし、その活動を通じて思うことは、枚方市民がいかに枚方の魅力について知らないかということです。半世紀の間に10倍にもなってしまった人口を抱える枚方市に住む人のほとんどは、よそから移り住んできた新住民であります。私自身もそうですが、最初にこのまちに居を構えた時に抱いたまちの印象は、ただ大きいだけで何の特徴もないまちであるなぁというのが正直なところでした。京都・大阪・奈良の中間点に位置し、どこに行くにも便利であるし、駅前に行けば一通りのものは何でも買い揃えられるかもしれないが、住んでいてどこか癒されない、潤えない部分が漠然とあるのです。人それぞれの価値観はあると思いますが、多くの市民はそんな風を感じているところもあるのではないのでしょうか。

休日、子どもを連れて奈良公園に行くと私はなぜか心が落ち着きます。それは、奈良公園には奈良の歴史や文化に培われた魅力と、それを無意識のなかで誇りに思い、人々を迎える、もてなしの心が流れているからではないのでしょうか。枚方に奈良や京都レベルのものを求めるのは難しいかもしれませんが、枚方にも全国に誇る素晴らしい地域資源が眠っています。やはり、その一つ一つを市民が誇りに思い、ランドマーク、アイデンティティーつくることも市民が主体となった枚方のまちづくりのきっかけを作るうえで必要ではないだろうかと思います。

まちづくり指標も行政評価も、これまでは目に見えるハードの部分をはかり、評価していくことが重点的な部分でありましたが、このようなことを視点においてつくることも、心の時代が叫ばれている今世紀においては今後、重要になってくるのではないかと思います。行政評価もまちづくり指標もまだ全国的に実施している自治体の少ないなかで、このようなソフト面を反映させたものをついている自治体は皆無であります。例がないだけに、その手法も難しいものであるかもしれませんが、郷土愛・人間愛・自然愛をまちづくりの理想として掲げています市長の思いのもと、地域資源を含めた様々な枚方の魅力の発信が産・学・民の連携で上手く功を奏せば、枚方方式の独創性に満ちたものが出来るのではないかと思います。それだけのベースになるものが枚方にあると思います。

私自身、この協議会のなかで、「観光」ということにこだわってきました。それはこの一言に、まちのすべての形が集大成されているように思うからです。

一般的に名所・旧跡を観に行くことが「観光」というイメージがありますが、「観光」という言葉の語源は、もともとは中国の『易経』という書物に出てくる「国の光を観る」がもともとの語源だそうです。古来中国でいう国の光は何であったか、それはその国の文化・文物・人物・政治・自然・環境その国に光り輝く全ての営みを観てくるのがもともとの観光であったといえます。そういった視点で観ていくと、まちづくりそのものが観光の対象になりうるわけです。例えば、市民にゴミの現状を訴えるために「枚方のゴミを知る」講座を催し、行政任せの考えを市民や業者にも考えてもらう機会を作り、減らすために何が出来るか考える、行動する、そしてそれがやがて実を結び、そのまちの誇り、魅力として位置づいていく。空気、水のきれいさ、スポーツの奮闘、それぞれの分野で行政や市民そして民間が協力して、それぞれが光り輝くために知恵を出し合いながら、頭を使いながらすすめていく試行錯誤（生涯学習）の過程が、いわゆる総合行政としてとらえた生涯学習都市の考え方であろうと思います。

枚方市も6大学を有するまちとして、生涯学習都市という言葉がよく市政の方針のなかで出ております。将来、もしこの方針を前面に打ち出すのであれば、生涯学習を社会教育の分野に限るのでなく、もっと広い視野と視点をもって魅力あるまちづくりの構築を目指していただきたいし、行政評価もまちづくり指標もそういった意識をもって作ることができたら、また変わったものが出来るのではな

いかと思います。その期待も一市民として寄せております。

この協議会であまりお役に立てる意見を出せませんでした。枚方で子育てをする母親として、このまちで子どもを育ててよかったと思えるまちにしたいという思い込めて発言させていただきました。4月から子どもが取り巻く教育環境も大きく変わります。子ども達が枚方の自慢できることをいくつ知っているか、案外それが一番、端的で確かなまちづくり指標かもしれないと考える次第です。

短い間でしたけれど、40万市民の代表としてこのような委員に任命していただき、その重責に応えられたかどうかは分かりませんが、多くの大学で活躍されております諸先生方のご意見を拝聴できたことは私自身も大きな収穫であり、今後の活動にプラスになったと感謝しております。ありがとうございました。

3 . 市民意識調查結果

調査概要

| | |
|---------|--|
| サンプル | 枚方市に在住する 20 歳以上の市民から無作為に 2,000 サンプル抽出 |
| 配布・回収方法 | 郵送配布、郵送回収 |
| 実施時期 | 発送：平成 13 年 12 月 13 日（木） 締切り：平成 13 年 12 月 24 日（月）投函分 |

回収状況

平成 14 年 1 月 11 日現在 966 票（回収率 48%）

単純集計結果

表内のハッチ部は、まちづくり指標に活用。

<フェイスシート>

| F1.性別 | 回答数 | 回答割合 |
|-------|-----|------|
| 男性 | 384 | 40% |
| 女性 | 492 | 51% |
| 無回答 | 90 | 9% |
| 合計 | 966 | 100% |

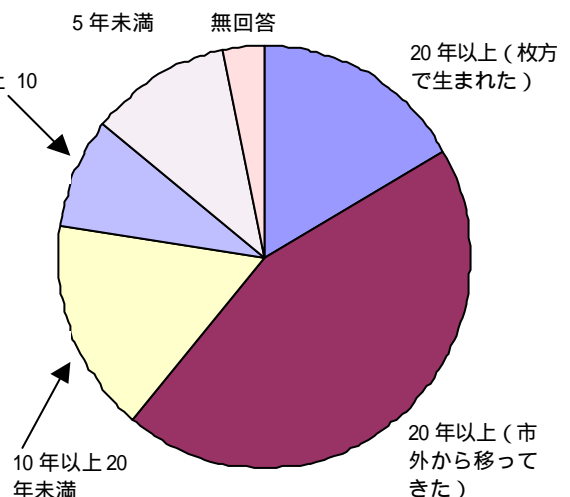
| F1.年齢 | 回答数 | 回答割合 |
|--------|-----|------|
| 20 歳代 | 119 | 12% |
| 30 歳代 | 158 | 16% |
| 40 歳代 | 136 | 14% |
| 50 歳代 | 253 | 26% |
| 60 歳代 | 178 | 18% |
| 70 歳代 | 83 | 9% |
| 80 歳以上 | 30 | 3% |
| 無回答 | 9 | 1% |
| 合計 | 966 | 100% |

| F1.配偶者 | 回答数 | 回答割合 |
|--------|-----|------|
| いる | 656 | 68% |
| いない | 223 | 23% |
| 無回答 | 87 | 9% |
| 合計 | 966 | 100% |

| F2.居住地域 | 回答数 | 回答割合 |
|---------|-----|------|
| 北部地域 | 215 | 22% |
| 中部地域 | 192 | 20% |
| 南西部地域 | 130 | 13% |
| 中東部地域 | 97 | 10% |
| 中南部地域 | 76 | 8% |
| 南部地域 | 177 | 18% |
| 東部地域 | 69 | 7% |
| 無回答 | 10 | 1% |
| 合計 | 966 | 100% |

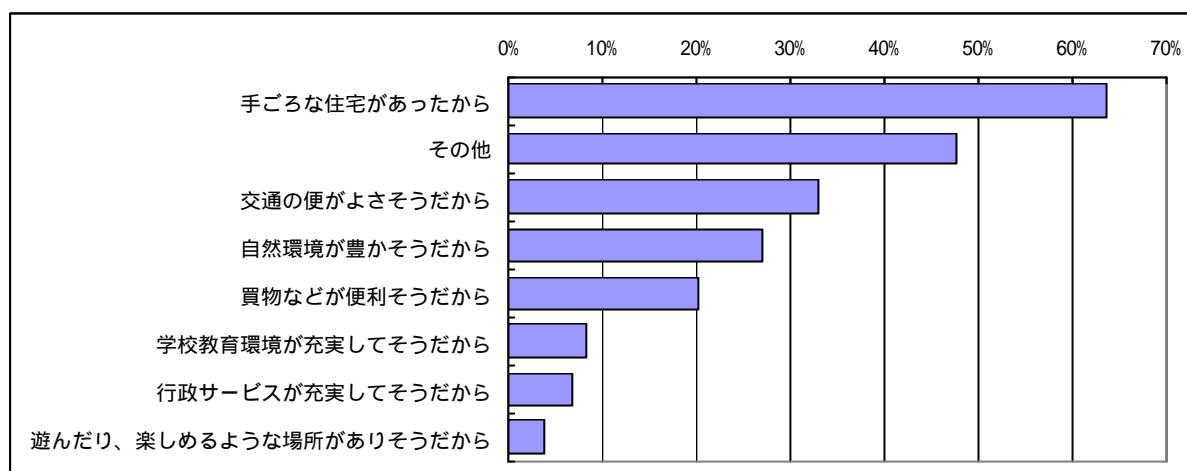
<問1 居住年数>

| 問1.居住年数 | 回答数 | 回答割合 |
|--------------------|-----|------|
| 1.20年以上（枚方で生まれた） | 160 | 17% |
| 2.20年以上（市外から移ってきた） | 430 | 45% |
| 3.10年以上20年未満 | 155 | 16% |
| 4.5年以上10年未満 | 85 | 9% |
| 5.5年未満 | 103 | 11% |
| 6.無回答 | 33 | 3% |
| 合計 | 966 | 100% |



<問1-1 枚方市に引っ越した理由 複数回答3項目まで>

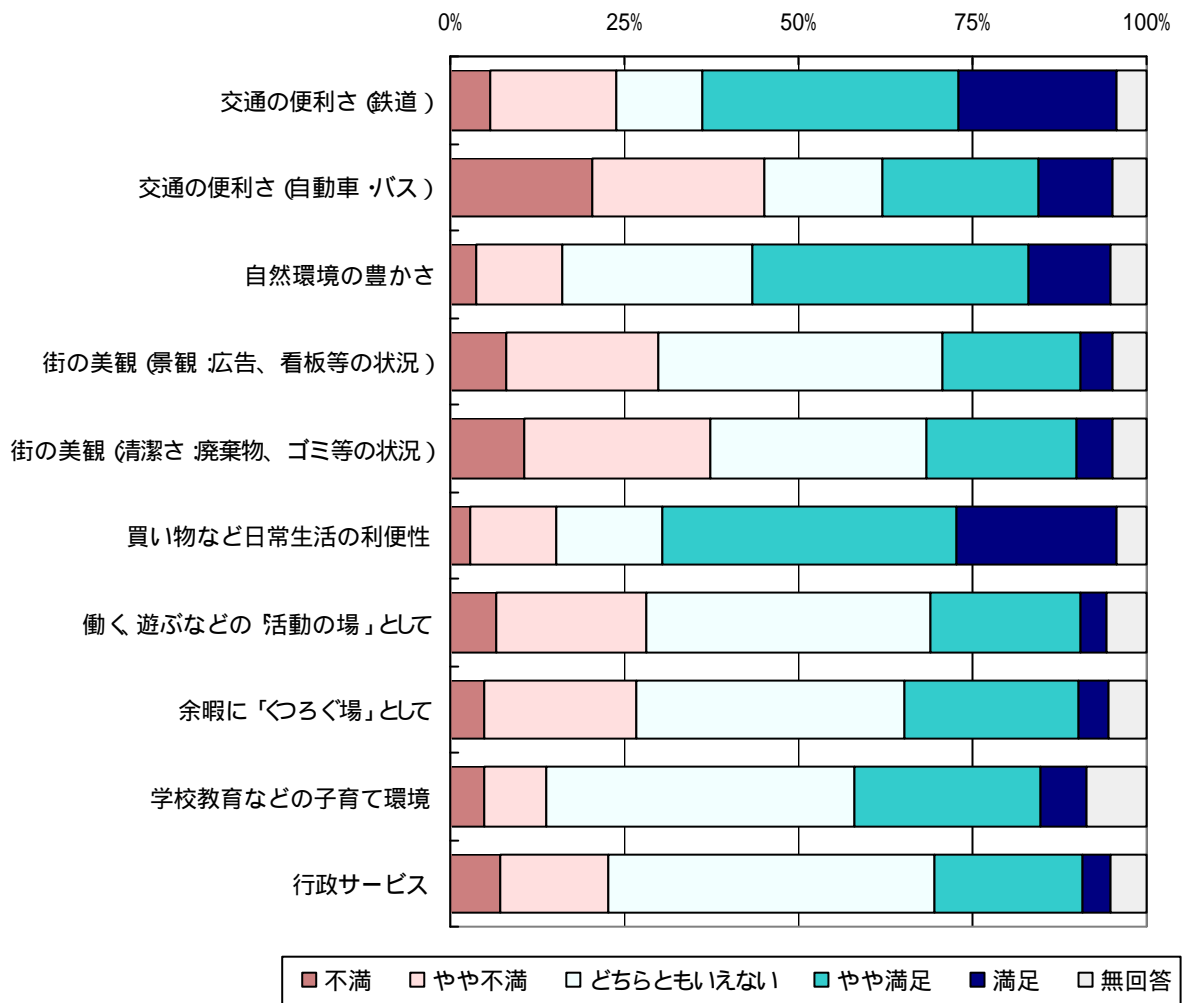
回答割合 = 回答数 / 枚方に在住20年未満の人



<問2 枚方市に関する満足度>

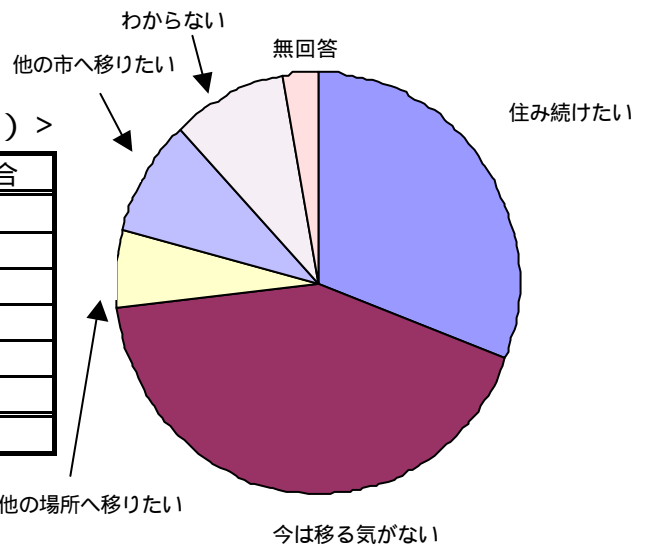
| 問2 | 交通の便利さ (鉄道) | 交通の便利さ (自動車・バス) | 自然環境の豊 かさ | 街の美観(景 観: 広告、看板 等の状況) | 街の美観(清潔 さ: 廃棄物、ゴ ミ等の状況) |
|-----------|----------------|--------------------|--------------|-----------------------------|-------------------------------|
| 不満 | 6% | 20% | 4% | 8% | 11% |
| やや不満 | 18% | 25% | 12% | 22% | 27% |
| どちらともいえない | 12% | 17% | 27% | 41% | 31% |
| やや満足 | 37% | 22% | 40% | 20% | 22% |
| 満足 | 23% | 11% | 12% | 5% | 5% |
| 無回答 | 4% | 5% | 5% | 5% | 5% |
| 合計 | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |

| 問2 | 買い物など日 常生活の利便 性 | 働く、遊ぶなど の「活動の場」 として | 余暇に「くつろ ぐ場」として | 学校教育など の子育て環境 | 行政サービス |
|-----------|-----------------------|---------------------------|-------------------|------------------|--------|
| 不満 | 3% | 7% | 5% | 5% | 7% |
| やや不満 | 13% | 22% | 22% | 9% | 16% |
| どちらともいえない | 15% | 41% | 39% | 44% | 47% |
| やや満足 | 42% | 22% | 25% | 27% | 21% |
| 満足 | 23% | 4% | 4% | 7% | 4% |
| 無回答 | 4% | 6% | 5% | 8% | 5% |
| 合計 | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% |



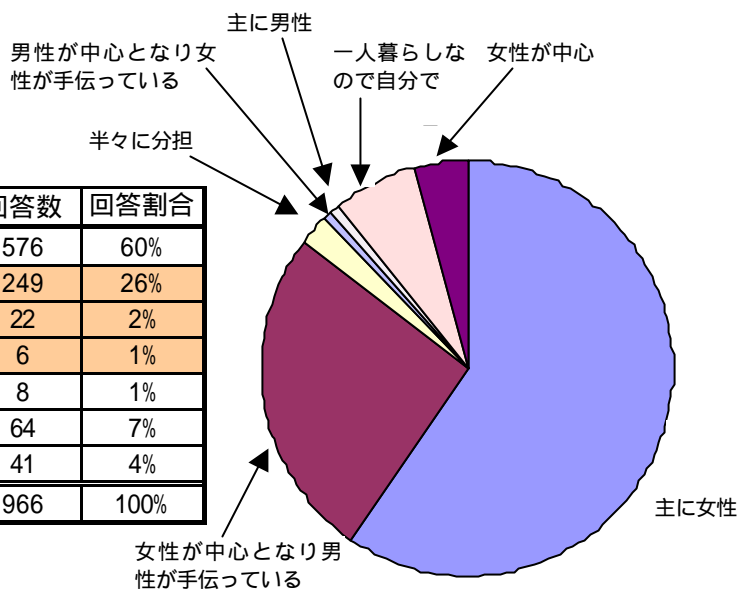
< 問3 今後の居留意向 (枚方市の総合評価) >

| 問3.居留意向 | 回答数 | 回答割合 |
|----------------|-----|------|
| 1.住み続けたい | 299 | 31% |
| 2.今は移る気がない | 407 | 42% |
| 3.市内で他の場所に移りたい | 59 | 6% |
| 4.他の市へ移りたい | 85 | 9% |
| 5.わからない | 90 | 9% |
| 6.無回答 | 26 | 3% |
| 合計 | 966 | 100% |



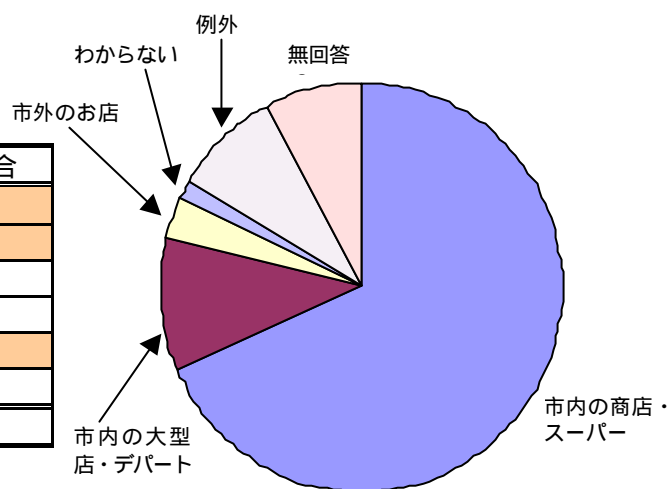
< 問4 家事分担 >

| 問4.家事分担 | 回答数 | 回答割合 |
|----------------------|-----|------|
| 1.主に女性が行っている | 576 | 60% |
| 2.女性が中心となり、男性が手伝っている | 249 | 26% |
| 3.男性と女性が半々に分担している | 22 | 2% |
| 4.男性が中心となり、女性が手伝っている | 6 | 1% |
| 5.主に男性が行っている | 8 | 1% |
| 6.一人暮らしなので自分で行っている | 64 | 7% |
| 7.無回答 | 41 | 4% |
| 合計 | 966 | 100% |



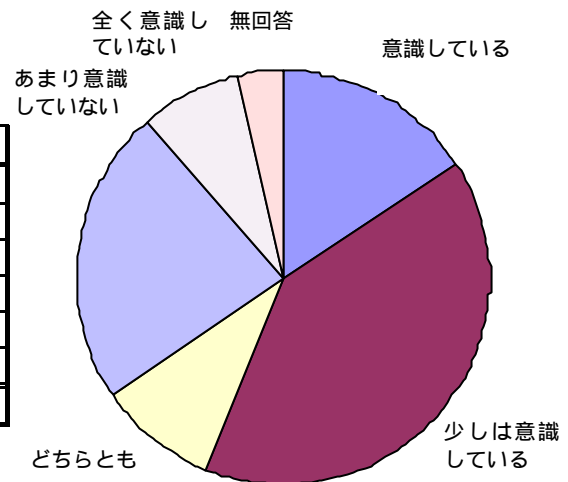
< 問5 日常の買物場所 >

| 問5.買物場所 | 回答数 | 回答割合 |
|---------------|-----|------|
| 1.市内の商店・スーパー | 660 | 68% |
| 2.市内の大型店・デパート | 103 | 11% |
| 3.市外のお店 | 31 | 3% |
| 4.わからない | 13 | 1% |
| 5.例外：1と2に | 83 | 9% |
| 6.無回答 | 76 | 8% |
| 合計 | 966 | 100% |



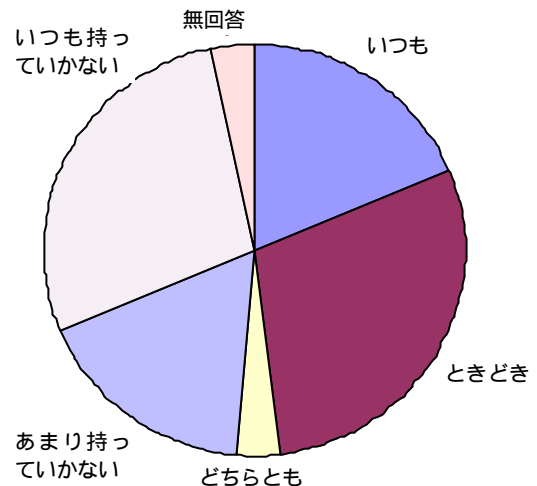
<問6 エコ商品購入意識>

| 問6.エコ商品 | 回答数 | 回答割合 |
|--------------|-----|------|
| 1.意識している | 152 | 16% |
| 2.少しは意識している | 391 | 40% |
| 3.どちらともいえない | 87 | 9% |
| 4.あまり意識していない | 226 | 23% |
| 5.全く意識していない | 76 | 8% |
| 6.無回答 | 34 | 4% |
| 合計 | 966 | 100% |



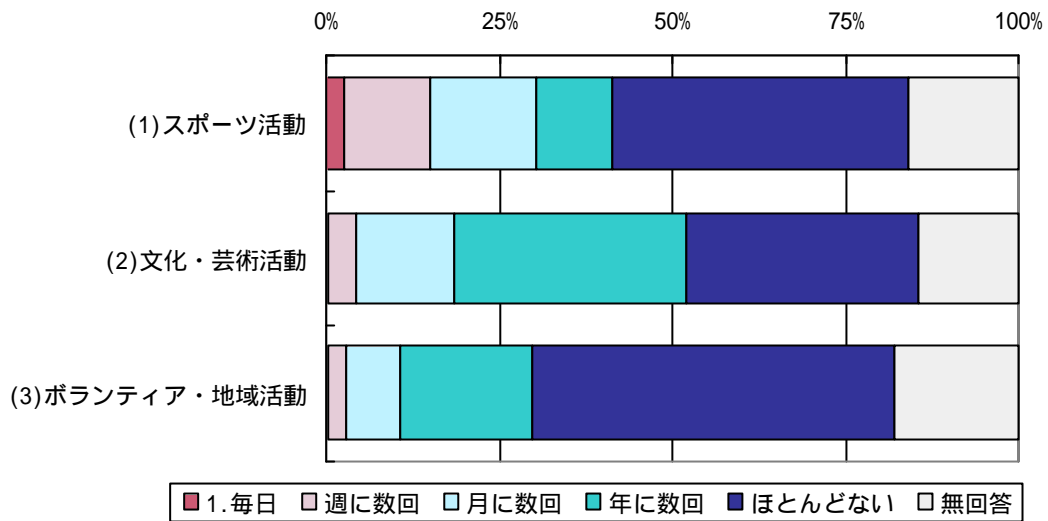
<問7 買い物袋を持って買物に行くかどうか>

| 問7.買い物袋 | 回答数 | 回答割合 |
|--------------|-----|------|
| 1.いつも持っていく | 180 | 19% |
| 2.ときどき持っていく | 283 | 29% |
| 3.どちらともいえない | 34 | 4% |
| 4.あまり持っていかない | 166 | 17% |
| 5.いつも持っていかない | 271 | 28% |
| 6.無回答 | 32 | 3% |
| 合計 | 966 | 100% |



<問8 余暇の過ごし方>

| 問8.余暇の過ごし方 | (1)スポーツ活動 | (2)文化・芸術活動 | (3)ボランティア・地域活動 |
|------------|-----------|------------|----------------|
| 1.毎日 | 3% | 0% | 0% |
| 2.週に数回 | 12% | 4% | 2% |
| 3.月に数回 | 15% | 14% | 8% |
| 4.年に数回 | 11% | 34% | 19% |
| 5.ほとんどしない | 43% | 34% | 52% |
| 6.無回答 | 16% | 14% | 18% |
| 合計 | 100% | 100% | 100% |



4 . 市民意識調査 質問票

枚方市市民意識調査

調査のお願い

ご多忙のところ恐れ入りますが、アンケート用紙にご記入いただき、同封の返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れ、

12月24日(月)

までにご投函くださいますようお願いいたします。

この調査は無記名でご回答いただき、調査の結果は統計的にのみ処理いたしますので、ご迷惑をおかけすることは決してございません。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご記入にあたってのお願い

- 宛名となっているご本人がご記入くださいますようお願いいたします。
- 設問によって、「3つまで」など複数の回答が可能な場合がありますので、その指示に従ってください。
- 「その他」に当てはまる場合は、お手数ですが、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
- 設問によっては、回答していただく必要がない場合がありますので、設問のことわり書きをよくお読みください。

お問い合わせ先

調査についてのお問い合わせは下記までお願いいたします。

枚方市 企画財政部 企画課 TEL (072)841-1221(代表)

ここから、アンケートの質問です。ご回答よろしくお願いします。

【あなた自身について】

F 1 . あなたの性別、年齢、配偶者の有無について、あてはまる番号に をつけてください。

| 性別 | 年齢 | | | 配偶者 |
|--------|-----------|-----------|------------|---------|
| 1 . 男性 | 1 . 20 歳代 | 4 . 50 歳代 | 7 . 80 歳以上 | 1 . いる |
| 2 . 女性 | 2 . 30 歳代 | 5 . 60 歳代 | | 2 . いない |
| | 3 . 40 歳代 | 6 . 70 歳代 | | |

F 2 . あなたのお住まいは、どの地域になりますか（別紙・地域図参照）、あてはまる番号に をつけてください。

| | | | |
|----------|---------|----------|----------|
| 1. 北部地域 | 2. 中部地域 | 3. 南西部地域 | 4. 中東部地域 |
| 5. 中南部地域 | 6. 南部地域 | 7. 東部地域 | |

【まちへのイメージ】

問 1 . あなたが枚方市にお住まいになって、何年くらい経ちますか。あてはまる番号に をつけてください。

| | | |
|--------------------|----------------------|----------|
| 1. 20 年以上（枚方で生まれた） | 2. 20 年以上（市外から移ってきた） | |
| 3. 10 年以上 20 年未満 | 4. 5 年以上 10 年未満 | 5. 5 年未満 |

問 1 で「3. 10 年以上 20 年未満」、「4. 5 年以上 10 年未満」または「5. 5 年未満」と答えられた人にお尋ねします。

問 1 - 1 . あなたは、どんな理由で枚方市に住むことを決めましたか。その理由について、あてはまる番号に 3 つまで をつけて下さい。

| | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 交通の便がよさそうだから | 2. 自然環境が豊かそうだから |
| 3. 手ごろな住宅があったから | 4. 買い物など生活が便利そうだから |
| 5. 学校教育環境が充実してそうだから | 6. 遊んだり、楽しめるような場所がありそうだから |
| 7. 行政サービスが充実してそうだから | 8. その他（ ） |

問2 .あなたが枚方市に住んでみて、次の項目についてどのように感じているのかをお答えください。
あてはまる番号に をつけてください。

| | 不満 | やや不満 | どちらとも いえない | やや満足 | 満足 |
|---------------------------|----|------|---------------|------|----|
| (1) 交通の便利さ(鉄道) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 交通の便利さ(自動車やバス交通) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) 自然環境の豊かさ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (4) 街の美観(景観: 広告、看板等の状況) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (5) 街の美観(清潔さ: 廃棄物、ゴミ等の状況) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (6) 買い物など日常生活の利便性 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (7) 働く、遊ぶなどの「活動の場」として | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (8) 余暇に「くつろぐ場」として | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (9) 学校教育などの子育て環境 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (10) 行政サービス | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問2 .で「不満」と答えた項目がある方にお尋ねします。

問2 - 2 .特に不満であると感じている項目について、その番号と内容を記入してください。複数ある場合はすべてご記入ください。

記入例)

| 番号 | 内容 |
|-----|---|
| (2) | 通勤時に毎日バスを利用しているが、常に国道1号線が混雑しており、バスが遅れている。 |

| 番号 | 内容 |
|----|----|
| | |

問3 .あなたは、現在お住まいのところでこれからも住み続けたいとお思いですか。それとも他に移りたいですか。あてはまる番号に をつけてください。

| | | |
|------------|------------|----------------|
| 1.住み続けたい | 2.今は移る気がない | 3.市内で他の場所に移りたい |
| 4.他の市へ移りたい | 5.わからない | |

【あなたの日常生活について】

<あなたの日常的な家事・買い物についてお伺いします。>

問4．あなたの家庭における男女の家事（調理、洗濯、掃除など）への参加度合いについて、あてはまる番号に をつけてください。

| | |
|-------------------|----------------------|
| 1.主に女性が行っている | 2.女性が中心となり、男性が手伝っている |
| 3.男性と女性が半々に分担している | 4.男性が中心となり、女性が手伝っている |
| 5.主に男性が行っている | 6.一人暮らしなので自分で行っている |

問5．あなたは食料品や日用品などの買い物を、どのようなお店でなさいますか。あてはまる番号に をつけてください。

| | | | |
|--------------|---------------|---------|---------|
| 1.市内の商店・スーパー | 2.市内の大型店・デパート | 3.市外のお店 | 4.わからない |
|--------------|---------------|---------|---------|

問6．あなたは商品を選ぶ際に、リサイクル商品やエコマーク商品、包装の簡素化など環境を意識して商品を購入しますか。あてはまる番号に をつけてください。

| | | |
|--------------|-------------|-------------|
| 1.意識している | 2.少しは意識している | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり意識していない | 5.全く意識していない | |

問7．あなたは食料品や日用品の買い物に出かける際に、「買い物袋」を持って買い物に行きますか。あてはまる番号に をつけてください。

| | | |
|-------------|-------------|-------------|
| 1.いつも持っていく | 2.ときどき持っていく | 3.どちらともいえない |
| 4.あまり持っていない | 5.いつも持っていない | |

<あなたの余暇の過ごし方についてお伺いします>

問8．あなたは次に挙げる活動をどの程度行っていますか。あてはまる番号に をつけてください。

(1) スポーツ活動

(例)地域のスポーツチームへの参加、ゴルフ、テニス、スポーツクラブ、自主トレーニングなど

(2) 文化・芸術活動

(例)市民学級、公民館、カルチャーセンター等の講座の受講、美術館、博物館や神社仏閣などの拝観・見学等、コンサートなど

(3) ボランティア・地域活動

(例)自治会、こども会、PTA 活動、障害者や高齢者の介護等のボランティア活動、その他ボランティア活動、環境やまちづくり等の市民活動、地域の清掃や美化活動など

| | 毎日 | 週に数回 | 月に数回 | 年に数回 | ほとんどない |
|-----------------|----|------|------|------|--------|
| (1) スポーツ活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 文化・芸術活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) ボランティア・地域活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

5 . 枚方市専門委員設置規則

枚方市専門委員設置規則(抄)

昭和 58 年 10 月 29 日

規則第 65 号

(設置)

第 1 条 本市に、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 174 条に規定する専門委員を置く。

(名称等)

第 2 条 専門委員の名称、定数、調査項目及び庶務を担当する課等は、別表に掲げるとおりとする。

(任期)

第 3 条 専門委員の任期は、2 年以内とする。ただし、専門委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 専門委員の再任は、妨げない。

(協議会)

第 4 条 専門委員が調査した事項について検討するため、別表に掲げる専門委員の種類ごとに協議会を設けることがある。

(平 8 規則 38・一部改正)

(会長及び副会長)

第 5 条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、専門委員の互選による。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総括する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代行し、会長が欠けたときはその職務を行う。

(招集)

第 6 条 協議会の会議は、会長が招集する。

(議長)

第 7 条 会長は、協議会の会議の議長となる。

(独立性)

第 8 条 協議会は、その議決をもつて専門委員の意見を拘束することができない。

(部会)

第 9 条 協議会は、特定の項目について調査させるため、特定の専門委員による部会を設けることができる。

2 第 5 条から前条までの規定は、部会について準用する。

(幹事)

第 10 条 協議会の事務を処理するため、幹事を置くことができる。

2 前項の幹事を置くときは、市長がその職を指定する。

(資料要求等)

第 11 条 専門委員又は協議会は、関係者に対して調査に係る資料を要求し、又は説明を求めることができる。

(補則)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、この規則の施行に関し必要な事項は、市長が定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則〔平成 13 年 8 月 8 日規則第 54 号〕

この規則は、公布の日から施行する。

別表(第 2 条、第 4 条関係)

(平 13 規則 54・一部改正)(抄)

| 名称 | 定数 | 調査項目 | 庶務を担当する課等 |
|-----------------|-------|---------------------------------------|-----------|
| まちづくり指標 検討委員 | 7 人以内 | 行政評価に基づくまちづくり 指標の整備及び設定に関する こと。 | 企画財政部企画課 |

まちづくり指標に関する提言

平成 14年 3月 29日

枚方市まちづくり指標検討委員協議会
枚方市企画財政部企画課
